

# IoT を使って毎日を安心、快適に

(株)ハピクロ



にじいろのはな保育園は子ども、保護者、職員みんなが育つ保育園

## Company Profile

会社名 (株)ハピクロ  
 (北九州市八幡西区八千代町3-16)  
 代表者 代表取締役社長 吉田 英啓  
 資本金 550万円  
 売上高 4000万円  
 (2020年3月期)  
 URL <https://hapikuro.com>

待機児童問題に取り組む任意団体として2017年（平成29年）設立。保育園運営、育児支援、IoT導入支援を3つの柱に事業を進めている。中田常務は米マイクロソフトが技術コミュニティに貢献した技術者を表彰するマイクロソフトMVPに10年連続選ばれており、クラウドやAIを使った取り組みに期待されている。



女性の社会進出が一般的になった今、保育施設の重要度はますますクローズアップされている。首都圏などの都市部では待機児童が社会問題化する一方で、我が子を安心してできる環境下で保育したいというニーズは高い。保育園運営と企業へのIT導入支援を両輪で手がけるハピクロは、独自に開発したIoTシステムを自らが運営する園に導入、実証を通じて保育と職場環境の改善を実現している。

## みんなが育つ保育園に

ハピクロは北九州市八幡西区で認可小規模保育事業所「にじいろのはな保育園」を運営している。理念は「子ども、保護者、職員にとことん寄り添う 子ども、保護者、職員みんなが育つ保育園」で、携わる全ての人々が安心・安全に子供たちに接することができるよう、運営にあたってはさまざまな工夫が凝らされている。

同社は2016年に園長の吉田真由美さんや、中田佳孝常務らが待機児童問題に取り組む任意団体として設立。翌17年には九州ヒューマンメディア創造センター（同八幡東区）主催の「北九州みらいのビジネスプランコンテスト」でオーディエンス賞ならびに社会起業大学賞を受賞した。中田さんは当時大手ITソリューションメーカーに勤務しており、自らのノウハウを製品開発に生かした。同年には育児支援イベント事業



入退園はカードキーで厳しく管理される

をはじめ、18年にはにじいろのはな保育園を開園すると同時にプログラミング教育も始めるなど、事業運営を本格化させた。

## 手作業をデジタルに

開園にあたり中田さんは、自らが開発するITツールを園内で積極利用するドッグフーディングを指向した。セキュリティーや業務改善などデジタル変革（DX）を導入することで、保育で発生する労力の軽減に努めようとしたのだ。

保育の現場には数多くの労力が発生する。7時半の開園から18時半閉園までの間の登降園記録、健康管理、給食業務、スタッフの出退勤記録などだ。中でも保育記録は日々内容が異なる。発熱した、給食を食べなかった、けんかした等々日々の業務を保育士は空き時間を見つけては手作業で記録していく。労力は膨大だ。中田さんは帳票作成サポートシステムによりこれら手作業の入力をデジタルに切り替えた。「面白いほどITが入ってない」環境を逆に、スマートフォンやタブレットで簡単に入力できるようにした。

また幼児の体の動きと呼吸を非接触で計ることで、事故や乳幼児突然死症候群（SIDS）を未然に防ぐ機器「ハピサボBabyセンサー」を開発、導入した。同センサーは外販しており、幼児の健康管理だけでなく保育士の精神的負担を軽減すると高い評価を得ている。

## 消費者に安心・安全を提供

同社は自社開発したITツールを他業種にも応用している。すでに北九州市内の食品メーカー向けに温度管理システムや、HACCP対応IoTシステムを提供している。

また新型コロナウイルス感染症の影響で飲食店の衛生管理や配送管理ニーズも高まっていることから、公益財団法人北九州生活科学センター（戸畑区）と連携して衛生管理ソリュー



事故や乳幼児突然死症候群を未然に防ぐ「ハピサボBabyセンサー」

ション（配送の見える化）の実証実験も始めた。20年度中に製品を福岡県内で発売して消費者に安心・安全を提供していく計画だ。

## IoT 一言

常務取締役事業企画担当

中田 佳孝



ここ数年でIoT関連技術が急速に発展し、さまざまな分野で活用が進んでいます。今後これらの技術がベースとなり、AIを始めとした技術も組み合わせ、地域課題や業務課題の解決を図っていくことになると思っています。当社ではその一助になるよう、今後も培ったノウハウやソリューションを提供していきます。

